

これからの地域づくりを考える
市民検討会議ワークショップ
川崎区 開催結果概要

◎開催日時 2018(平成30)年9月15日(土) 13:30~17:00

◎開催場所 unicourt

◎参加者 35名 他40名(事務局、コンサルタント、傍聴者等)

◎内容 開会あいさつ 阿部市民文化局コミュニティ推進部長

ワークショップの目的と進め方

グループワーク

・自己紹介

・テーマ1 「こうなったらいいなと思う10年後の川崎区のミライ」を出し合おう

・テーマ2 「こうなったらいいなと思う10年後の川崎区のミライ」を実現させるために
「自分たちができること」のアイデアを出し合おう

グループワークの発表

閉会あいさつ 水谷川崎区長

◎出された主な意見

- ・外国人と共存・共栄し、どこよりも多様性のまちとして、本当のダイバーシティを目指す
- ・地縁組織を再編し、市民活動団体と連携して、地域の課題解決を
- ・市民活動や地域課題のコーディネーターがいるまち
- ・高齢者は光齢者、市民は志民として、個性を生かし、地域全体で子どもを見守るまち
- ・大好きな川崎を育てるカワサキプライド
- ・おせっかいコンシェルジュ認定制度の導入
- ・ゴミを新たな資源として活用する
- ・関心事(健康やスポーツなど)をきっかけに多世代間交流





市民検討会議ワークショップ（川崎区）のまとめ

こうなったらいいと思う 10年後の姿の Point



川崎区の「こうなったらいいなと思う10年後の姿」の議論では、5つのグループに共通するテーマとして、川崎区の特徴である、**多様性を大切にする**まちが挙げられた。多くの外国人が住む川崎区では、文化や考え方等が異なる人が共存できるまちを目指すことが重要である。その実現のために、市の歴史を未来に伝えること、ラップやエスニックなど川崎区の個性的な文化を活かした「**多文化フェスティバル**」による外国人との共存・共栄のアイデアが出されている。こうした取り組みの先に、**多様性に対応した防犯**のあり方が整い、**どこよりも安全なまち**につなげたいという想いも寄せられた。

また、**多様な世代が地域全体で子どもを見守っている**まちというキーワードも多くのグループで出されている。大人が子どもの義務教育に関わる場やきっかけがあることで、子どもが様々な人と触れ合う機会が創出されるとともに、学校や子育て世代の手助けになるしくみができることが重要視された。特に高齢者を「**光年齢者**」と捉え、いつまでもエネルギーに地域で活躍できること。市民は「**志民**」として、地域課題に取り組む社会が必要だというキーワードが出されている。

子どものための場や機会として、**遊び、公園**というキーワードが多く出た。遊びに関しては、ボール遊びができる公園が求められると共に、小さな子どもも安心して共存できる場所が必要である。さらに、公園には**ポジティブな機能**が期待されており、芝生がある公園や交通などを学べる公園、プレーパークなどが提案された。

自由に**アイデアを実現**でき、**地域で働く機会**にもつながるような**フリースペース**があ

ると、子育てママのスキルを活かせる場所や機会ができて良いという意見があった。既存の施設として、こども文化センターやいこいの家の活用、後継者問題で悩む商店街では空き店舗の活用によるにぎわいの創出などのアイデアが挙げられた。

大人から子どもまで集まれる**地域の拠点**が、川崎駅の近くなど利便性の高い場所にあるとともに、地域の身近な場所にも点在している重要性が指摘された。また、現在の川崎区の交通網を踏まえ、これらの拠点をつなぐ移動手段の確保も必要であると提案された。

地域コミュニティの組織として、町内会・自治会をはじめ、民生児童委員や老人会、PTAなどの**地縁組織の再編**の必要性や、町内会・自治会の加入率100%につなげる工夫、**市民活動団体との連携による地域課題の解決力の向上**が挙げられている。そのためには、市民が自分ごとで主体的に地域に関わるような意識の向上を促すような、**コーディネーターの必要性**も挙げられている。

その他、資源の活用によりごみがなくなるまち、みどりがもっと豊かになるまち、買い物便利なまちなどが挙げられた。

「こうなったらいいなと思う10年後の川崎区のミライ」を出し合おう

多様性のまち（どの区よりも）

- 多文化フェスティバル
→ラップ、エスニックなど
- 外国人との共存・共栄
- 多様性に対応した防犯も必要

多世代で、地域全体で見守るまち

- シニア
→いつまでもエネルギーに
→高齢者は光る齢＝「光齢者」
→市民は志のある民＝「志民」
- 子ども
- 親・大人
- 外国人

世代間交流の場

- 教育（シニア、子ども）
→教育の質をアップ

- 義務教育に一般の人が関わる
- 個性を生かせる
- 寺子屋が目指す姿

○遊び（子ども、親・大人）

- 安心して遊べる →時間もある
- ボールが使えると共に、小さな子どもも安心して共存できる
- 居場所がある →いつまでも、高校生になっても関われる
- プレーパークがある

○公園

- 共生空間を富士見公園に！
- 芝生がある空間ができている
- 交通公園で交通教育を

○ママのスキルが活かせる（親・大人）

○フリースペース（親・大人）

- 働ける、自由に使える
- アイデアを実現できる

○駅の近くに集える場所

- 一方で、駅に集中しない拠点も必要
(地域の身近なところにも拠点が必要)

○移動

- タテ移動・ヨコ移動
- 市民が活用する拠点をつなぐ移動手段が充実する

○子ども文化センター・いこいの家の活用

○人が集まる場所とは

- にぎわいがある →ダンスしていい場所など
- ↑
- 防犯（安全性）も大事
- 多様性があるまちは、多様な防犯対策もセットで考える必要がある

地縁組織の再編

○町内会、自治体、民生委員、PTA、老人会などをトータルに一体化

- 地縁組織のあり方を考えることが必要かも

1 グループ

- 川崎区らしい問題とは？
 - シングル
 - 生活保護
 - 貧困
 - 買い物、仕事、教育の質の充実
- コミュニケーションを大切に
 - 顔が見える関係へ
- 多様性への配慮
 - 仲間集め
 - ご近所付き合い
- （仮称）おせっかいコンシェルジュ
 - 多様なコミュニケーションをつなぐ人
 - 認定制度があると良い

2 グループ

- ゴミが多い（区の課題）
 - ゴミを新たな資源として捉え活用する
- 子どもの居場所がない、遊ぶ場所や公園が少ない
- 川崎区にも「夢パーク」を作ろう！
 - ボールが使えるとともに、ボールを使わない人の安全も確保されている
 - ものづくりを体験できる
- 本当のダイバーシティを目指す！

3 グループ

- 多様性を活かす
- 高齢者のできることを情報収集
 - 高齢者はこれまでにやってきたことを集約
 - アプリをつくる



- 子どもの教育に活かす
 - 寺子屋事業に反映
- 子どもが多文化・異文化に触れる
 - 現場を共有することでわかる
 - 例：ゴミはせっけんプラントに活用
 - 義務教育に組み込んでいく

4グループ

- 地域全体で子どもを守りたい、育てたい！



- スペースを作る（ハード）
 - みんなが集まれる場所があってほしい
 - 指導者を育てる（ソフト）
 - 団体や場所をつなげる人材の創出が必要
- 両輪
- 大好きな川崎を育てたい
 - カワサキプライド
 - みんなが好きな関わりをもってほしい

5グループ

- ポジティブに「あるもの探し」をした！
- 人口流入地域が、駅→大師へ広がる
- 「禁止」ではなく、「やれることをやろう」という活動
- ストリートカルチャー（スケボーパーク等）
- 健康、コミュニティ×スポーツ
 - コミュニティ：多世代間交流
 - スポーツ：ダンス、ストリートカルチャー、ラップ等

○スポーツという観点から

→区民の関心ごとをスポーツという観点から発信する